

表1 全国の空襲被害（簡略版）

（週刊 朝日百科『日本の歴史』122 「敗戦と原爆投下」）

都道府県名	都市町村数	空襲回数	死者数	負傷・行方不明者数	損失家屋数	主要空襲年月日
北海道	(52+1)	(57)	1,210	427	4855	
青森県	(5)	10	1,772	890	17,863	1945.7.28
秋田県	(2)	2	94	9		
岩手県	(5)	9	616	610	4,858	1945.7.14、8.9
宮城県	(11)	15	1,118	2,018	11,603	1945.7..9～10
山形県	(6)	(6)	42	33		
福島県	(8)	(16)	661	462	2,730	1945.7.26
栃木県	(9)	(13)	612	1,181	10,835	1945.7.12
茨城県	(7)	(9)	3,299	3,145	14,952	1945.7.17
群馬県	(15)	(29)	1,237	1,538	15,052	1945.8.2
埼玉県	(10)	(15)	392	963	3,797	1945.8.14
千葉県	(12)	18	1,448	1,945	14,181	1945.7.7
東京都	東京23区+6	98	116,959	119,957	770,090	1945.3.10、4.14、5.23
神奈川県	(9)	58	9,197	16,202	146,493	1945.5.29
静岡県	(15)	85	6,539	9,589	96,774	1945.6.18、7.29
新潟県	(2)	2	1,467	472	15,123	1945.8.1
山梨県	(2)	(2)	1,181	1,085	17,364	1945.7.6
長野県	(4)	(4)	52	41	106	
富山県	(2)	(3)	2,300	3,801	22,490	1945.8.2
石川県	(3)	(3)	27	25		
福井県	(2)	(4)	1,809	1,921	26,966	
岐阜県	(3)	(21)	1,191	1,103	33,963	1945.7.9-10
滋賀県	(4)	(11)	45	86		
奈良県	(12)	12	31	122	-	
愛知県	(26)	(91)	13,359	15,796	168,119	1945.7.20
三重県	(8)	(30)	5,612	3,749	32,837	1945.7.20
和歌山県	(12)	(44)	1,830	5,241	30,276	1945.7.9
大阪府	(15)	(63)	15,784	28,347	364,422	1945.3.15-19/6.1/8.7
京都府	(7)	(6)	215	270		
兵庫県	(10)	(158)	12,427	21,619	212,968	1945.3.17/5.11/6.6
岡山県	(3)	10	1,773	1,251	23,800	1945.6.29
広島県	(3)	(10)	262,425	61,066	101,628	1945.8.6(原爆)
鳥取県	(3)	(3)	61	312		
島根県	(1)	(1)	38	6		
山口県	(9)	(29)	3,493	4,031	23,106	1945.7.1
香川県	(1)	4	1,369	1,220		
徳島県	(3)	(8)	1,710	1,660		
愛媛県	(5)	(18)	546	2,219	21,552	
高知県	(1)	8	647	1,098	12,237	1945.7.4
福岡県	(4)	(23)	5,776	5,011	62,048	1945.6.19～20
佐賀県	(3)	(3)	138	192		
長崎県	(10)	(28)	75,380	43,060	50,079	1945.8.9(原爆)
熊本県	(11)	(21)	869	1,039	11,657	1945.7.1
大分県	(7)	(22)	710	537	2,486	1945.7.17
宮崎県	(8)	(47)	646	559		1945.3.18
鹿児島県	(51)	(58)	4,601	2,826		1945.3.18

註1)本表の作成にあたっては、早乙女勝元著『東京大空襲』(河出書房新社2003年)に依拠した。各府県ごとの空襲市町村が最も詳細であるからである。

2)主要空襲年月日、損失家屋数は『週刊朝日百科』『日本の歴史』(敗戦と原爆投下)に依拠した。早乙女空襲表にはなかったからである。なお、死者数は早乙女表と朝日百科表は同一の場合が多いが相異なる場合数箇所、朝日百科に依拠した。

3)「早乙女」表「朝日百科」表には、負傷行方不明者の記載がないので、小学館『日本の歴史』7『太平洋戦争』に依拠した。「小学館」表は、経済安定本部「太平洋戦争による我国の被害総合報告書」『沖縄県史』などによると記載されている。負傷・行方不明者の町村別統計はなく、府県毎全部の統計のみである。

4)鹿児島県の若干の都市の空襲年月日については、加藤美希雄『日本列島大爆撃』(仙石出版)に依拠した。(追記)アサート4月号掲載にあたって、全国都市町村別の表を簡略化させていただき、都道府県毎の集計のみ掲載させていただきます。全掲載の表は、ホームページにてご覧になれます。(佐野秀夫)

表2 全国の空襲被害（府県別）

都道府県名	空襲都市 町村数	死者数	負傷・行方 不明者数	死者・負傷・ 行方不明者数	損失家屋数
北海道	52	1,210	420	1,630	4,855
青森県	5	1,772	890	2,662	17,863
秋田県	2	94	9	103	
岩手県	5	616	610	1,226	4,858
宮城県	11	1,118	2,018	3,136	11,603
山形県	6	42	33	75	
福島県	9	661	462	1,123	2,730
茨城県	7	3,299	3,145	6,444	14,952
栃木県	9	612	1,181	1,793	10,835
群馬県	15	1,237	1,538	2,775	3,797
千葉県	12	1,448	1,945	3,393	14,181
東京都	7	116,959	119,957	236,916	770,090
埼玉県	10	392	963	1,355	3,797
神奈川県	9	9,197	16,202	25,399	146,497
(小計)	159	138,657	149,373	288,030	1,006,058
静岡県	15	6,539	9,589	16,128	96,774
新潟県	2	1,467	472	1,939	15,123
山梨県	2	1,181	1,085	2,266	17,364
長野県	4	52	41	93	106
富山県	2	2,300	3,801	6,101	22,490
石川県	3	27	25	52	-
福井県	2	1,809	1,921	3,730	26,966
岐阜県	3	1,191	1,103	2,294	33,963
滋賀県	3	45	86	131	
奈良県	12	31	122	153	-
愛知県	26	13,359	15,796	29,155	168,119
三重県	8	5,612	3,749	9,361	32,837
和歌山県	12	1,830	5,241	7,071	30,276
大阪府	15	15,784	28,347	44,131	364,422
京都府	7	215	270	485	-
兵庫県	10	12,427	21,619	34,046	212,968
(小計)	126	63,869	93,267	157,136	1,021,408
岡山県	3	1,773	1,251	3,024	23,800
広島県	3	262,425	61,066	323,491	101,618
鳥取県	3	61	312	373	-
島根県	1	38	6	44	-
山口県	9	3,493	4,031	7,524	23,106
香川県	1	1,369	1,220	2,589	-
徳島県	3	1,710	1,660	3,370	-
愛媛県	5	546	2,219	2,765	-
高知県	1	647	1,098	1,745	12,237
(小計)	29	272,062	72,863	344,925	160,761
福岡県	4	5,776	5,011	10,787	62,048
佐賀県	3	138	192	330	-
長崎県	10	75,380	43,060	118,440	50,079
熊本県	11	869	1,039	1,908	11,657
大分県	7	710	537	1,247	2,486
宮崎県	8	646	559	1,205	-
鹿児島県	51	4,601	2,826	7,427	-
(小計)	94	88,120	53,224	141,344	126,270
(全国合計)	408	562,708	368,727	931,435	2,314,497

表3 空襲・原爆による死者数

	経済安定本部 全国 (1948.5)	建設省 215都市 (1959.3)	朝日新聞 229都市 (1991.8)	『アサート』表 全国 (2005.3)
調査地域計	299,485	336,738	432,531	561,609
30都市計	259,482	313,182	404,843	457,522
27都市計	62,206	69,575	80,843	104,087
仙台市	998	901	1,442	1,066
日立市	1,266	1,266	1,578	2,390
東京区部	95,374	91,444	114,000	115,000
横浜市	4,616	5,380	8,000	8,000
川崎市	1,001	1,001	768	768
長岡市	1,143	1,143	1,461	1,460
富山市	2,149	2,275	2,275	2,275
福井市	1,576	1,576	1,684	1,584
甲府市	1,027	740	1,127	1,127
静岡市	1,813	1,813	2,000	2,010
浜松市	2,447	2,947	2,947	3,549
名古屋市	8,076	8,240	7,858	8,625
豊川市	1,408	2,372	3,000	2,477
津市	1,885	1,498	4,000	4,000
大阪市	9,246	10,388	12,600	12,620
堺市	1,417	1,876	1,876	2,270
神戸市	6,789	7,051	8,400	8,841
明石市	1,360	1,464	1,496	1,464
和歌山市	1,300	1,625	1,200	1,212
岡山市	1,678	1,678	1,737	1,737
広島市	78,150	78,150	140,000	260,000
呉市	1,939	2,062	2,700	2,071
徳島市	570	1,166	1,400	1,700
高松市	927	1,273	1,359	1,369
福岡市	953	2,000	2,500	2,000
北九州市	2,385	2,251	2,385	2,251
大牟田市	780	780	1,291	1,297
長崎市	23,782	74,013	70,000	74,228
佐世保市	1,030	1,030	1,030	1,030
鹿児島市	2,427	3,329	3,329	3,329

註(1) 広田純『太平洋戦争におけるわが国の戦争被害』「立教大学経済学研究」第4巻第4号 1992年P17より引用

- (2) 上述の表に今回まとめた全国の都市被害から該当部分を抽出し、仮に「アサート表」としてつけたものである。
- (3) 『アサート表』をつけ加えたのは、われわれの表の位置づけを検討するためである。死者数は経済安定本部の1948年、建設省の1959年、「朝日新聞」の1991年と年数を経過する程増加している。これは年数経過によって、より詳細な検討が可能になるからであろうが、この問題については本論で詳細に検討する。むしろ、われわれは建設省調査と「朝日新聞」調査との間に32年の歳月が横たわっていること、そしてこの32年は1960年より始まった高度成長の時代」に対応していることに注目する。この32年は、われわれが「経済成長」にうかれて、戦争被害を忘却していたことをあらわしている。
- (4) なお、表の(30-27)の3都市とは、最大の空襲を受けた広島、長崎、東京を意味する。3都市の死者だけで30都市の死者の76%(経本)78%(建設省)80%(朝日)77%(アサート)を示し、いかに原爆ならびに東京大空襲が苛酷なものであったかを示している。

表4 都道府県別被害状況 (A)

都道府県名	死者	傷者	全焼壊	半焼壊	罹災者
京都	227	576	203	260	1,390
大阪	13,192	26,814	328,702	32,310	1,023,036
兵庫	10,404	20,325	160,354	10,575	582,875
長崎	21,501	51,584	33,360	25,200	204,960
奈良	73	242	100	40	560
三重	2,040	3,783	26,236	2,084	113,280
愛知	11,243	14,451	168,180	15,154	550,000
滋賀	59	237	52	33	400
岐阜	787	662	23,906	1,581	89,130
福井	917	1,879	27,350	480	139,150
石川	3	31			
富山	2,258	3,864	22,796	379	92,700
鳥取	80	92	32	23	250
島根	8	21	12	46	300
岡山	1,724	945	25,781	538	131,600
広島	49,921	58,839	93,537	6,952	359,000
山口	3,799	3,665	19,499	1,821	74,500
和歌山	1,992	5,609	29,630	1,224	123,510
徳島	939	971	18,242	492	84,300
香川	722	2,610	18,892	323	86,400
愛媛	515	757	14,536	765	68,850
高知	433	11,621	3,240	579	62,300
福岡	2,094	2,852	48,381	2,034	176,230
大分	603	989	3,340	1,279	18,350
佐賀	50	85	450	30	200
熊本	1,210	1,812	14,126	330	57,850
宮崎	462	611	3,994	234	16,900
鹿児島	2,358	2,649	36,094	1,549	150,500
東京	88,250	61,106	851,166	8,217	2,578,150
神奈川	6,242	15,028	94,926	1,762	440,064
静岡	5,707	11,946	74,618	8,292	290,200
茨城	1,901	2,508	23,361	1,132	101,990
千葉	1,478	1,855	21,103	786	87,536
宮城	1,175	1,959	672	111	35,300
群馬	974	1,445	14,626	668	61,176
山梨	929	1,401	18,518	202	75,000
新潟	869	2,109	11,336	88	45,699
青森	828	1,050	15,103	350	77,265
北海道	796	553	2,030	750	13,950
栃木	670	1,361	11,357	248	46,420
岩手	620	655	4,337	134	20,120
埼玉	528	1,068	5,598	346	23,776
福島	500	561	1,509	418	8,700
秋田	123	126	94	87	830
長野	37	54	62	28	350
山形	18	33	5	0	30
計	241,309	313,041	2,332,388	110,928	8,045,094
印は関係報告未着のため内容変動あるをしめす					

註(1)本表は、鶴見俊輔『日本の百年』(3「果てしなき戦線」)(筑摩書房)より引用したものである。  
(2)この統計表の原典は不詳、おそらく官庁統計(1948年の「経済安定本部」の調査)と推量される。

その理由は青森、北海道、岩手に印がつけられ、「関係報告未着のため内容変更あるを示す」と註記されているから、戦後初の調査と推測されるからである。

表5 都道府県別被害状況（B）

都道府県名	死者		傷者		損失家屋		罹災者	
	鶴見表	アサート表	鶴見表	アサート表	鶴見表	アサート表	鶴見表	アサート表
京都	227	215	576	270	463		1,390	-
大阪	13,192	15,784	26,814	28,347	361,012	364,422	1,023,036	-
兵庫	10,404	12,427	20,325	21,629	170,927	212,968	582,875	-
長崎	21,501	75,380	51,584	43,060	58,560	50,079	204,960	-
奈良	73	31	242	122	140		560	-
三重	2,040	5,612	3,783	3,749	28,320	32,837	113,280	-
愛知	11,243	13,359	14,451	15,796	183,334	168,119	550,000	-
滋賀	59	45	237	86	85	-	400	-
岐阜	787	1,191	662	1,103	25,487	33,963	89,130	-
福井	917	1,809	1,879	1,921	27,830	26,966	139,150	-
石川	3	27	31	25	-	-	-	-
富山	2,258	2,300	3,864	3,801	23,175	22,490	92,700	-
鳥取	80	61	92	312	55	-	250	-
島根	8	38	21	6	58	-	300	-
岡山	1,724	1,773	945	1,251	26,320	23,800	131,600	-
広島	49,921	262,425	58,839	61,066	100,489	101,618	359,000	-
山口	3,799	3,493	3,665	4,031	21,320	23,106	74,500	-
和歌山	1,992	1,830	5,609	5,241	40,854	30,276	123,510	-
徳島	939	1,710	971	1,660	18,734	-	84,300	-
香川	722	1,369	2,610	1,220	37,949	-	86,400	-
愛媛	515	546	757	2,219	15,901	-	68,850	-
高知	433	647	11,621	1,048	3,819	12,237	62,300	-
福岡	2,094	5,776	2,852	5,011	50,413	62,048	176,230	-
大分	603	710	989	537	55,034	2,486	18,350	-
佐賀	50	138	85	192	480	330	200	-
熊本	1,210	869	1,812	1,039	14,456	11,657	57,850	-
宮崎	462	646	611	559	4,228	-	16,900	-
鹿児島	2,358	4,601	2,649	2,826	37,643	-	150,500	-
東京	88,250	116,959	61,106	119,957	859,378	770,090	2,578,150	-
神奈川	6,242	9,197	15,028	16,202	96,688	146,497	440,064	-
静岡	5,707	6,539	11,945	9,589	82,910	96,774	290,200	-
茨城	1,901	3,299	2,508	3,145	24,493	14,952	101,990	-
千葉	1,478	1,448	1,855	1,945	21,889	14,181	87,536	-
宮城	1,175	1,118	1,959	2,018	783	11,603	35,300	-
群馬	974	1,237	1,445	1,538	15,294	3,797	61,176	-
山梨	929	1,181	1,401	1,085	18,720	17,364	75,000	-
新潟	869	1,467	2,109	472	11,424	15,123	45,699	-
青森	828	1,772	1,050	890	15,453	17,863	77,265	-
北海道	796	1,210	553	420	2,780	4,855	13,950	-
栃木	670	612	1,361	1,181	11,605	10,835	46,420	-
岩手	620	616	655	610	4,471	4,858	20,120	-
埼玉	528	392	1,068	392	5,944	3,797	23,776	-
福島	500	661	561	33	1,927	2,730	8,700	-
秋田	123	94	126	9	181		830	-
長野	37	52	54	41	90	106	350	-
山形	18	42	33	33	5	-	30	-
計	241,309	562,708	313,041	368,727	2,443,316	2,314,492	8,045,094	-

表6 艦砲射撃による被害

府県名	死者	負傷者	計
1) 岩手	120	64	184
2) 福島	13	16	29
3) 茨城	299	106	405
4) 千葉	28	8	36
5) 静岡	250	239	489
6) 和歌山	10	19	29
7) 北海道	387	177	564
(計)	1107	629	1736

小学館 『昭和の歴史』(7) 「太平洋戦争」より引用

表7 太平洋戦争中の船員死亡者と  
民間船舶の沈没原因と沈没海域

戦争中の船員死亡者	62,962人
沈没民間船舶	2,394隻

(8,018,122総トン：100トン以上戦争海難)

沈没原因		沈没海域	
空爆	30.8%	東インド諸島	10.7%
雷撃	56.5%	南洋群島	11.5%
触雷	6.7%	台湾近海	11.8%
普通海難	3.4%	南シナ海	14.8%
その他	1.1%	比島近海	16.2%
		日本近海	18.6%
		朝鮮近海	6.7%
		南太平洋	6.3%
		その他	3.4%

全日本海員組合 『海なお深々』 (1981) より引用

表8 アメリカ空軍の出撃・爆撃状況

年	月日	対象区域	機種	機数	年	月日	対象区域	機種	機数
1944	11/1	東京	B29	数機	1945	5/25	関東・東海地区	P51	60
	11/2	東京	B29	数機		5/26	東京	B29	250
	11/7	東京	B29	数機		5/29	横浜	B29, P51	B29( 100 ), P51( 100 )
	11/21	九州西部	B29	80		6/1	大阪	B29	400
	11/24	東京	B29	70		6/2	南九州	P51, P38	200
	11/27	東京	B29	40		6/5	神戸周辺	B29	350
	11/30	東京	B29	20		6/7	大阪周辺	B29	250
	12/3	東京	B29	70		6/8	南九州	P51, P41	200
	12/6	東京	B29	1		6/10	関東全域	B29, P51	B29( 300 ), P51( 70 )
	12/10	東京	B29	2		6/11	京浜西南部	P51	60
	12/11	東京	B29	4		6/11	若狭湾・関門海峡	B29	400( 機雷投下 )
	12/12	東京	B29	4		6/15	大阪・神戸・和歌山	B29	300
	12/13	静岡・愛知	B29	80		6/16	相模湾・富山湾・関門	B29	25( 機雷投下 )
	12/15	東京	B29	2		6/18	鹿児島・大牟田	B29	100
	12/18	名古屋・近畿・横須賀	B29	70		6/20	静岡・豊橋	B29	200
	12/20	東京	B29	1		6/22	近畿・中国	B29	360
	12/22	名古屋・近畿・静岡・舞鶴	B29	100		6/23	茨城	P51, グラムF	75
	12/24	東京	B29	1		6/26	近畿・名古屋	B29	350
	12/28	東京	B29	50		6/29	岡山	B29	70
1945	1/3	大阪・浜松・名古屋	B29	90		6/29	関門・佐世保	B29	60
	1/6	九州西部	B29	80		7/2	熊本・関門・宇部・延岡	B29	160
	1/9	巻頭・東海道・近畿	B29	60		7/4	姫路・高松・徳島・高知	B29	250
	1/14	名古屋・伊勢	B29	60		7/5	茨城・栃木・千葉	P51	100
	1/19	阪神工業地帯	B29	80		7/6	埼玉・茨城・千葉	P51	90
	1/23	浜松・名古屋	B29	70		7/7	明石	B29	100
	1/27	東京	B29	70(混投)		7/8	茨城・房総・京浜	B29	150
	1/29	八丈島	B29	数機		7/9	大阪・堺・和歌山・高知	B29	270
	2/13	名古屋	B29	60		7/9	岐阜・四日市	B29	11
	2/16	関東・静岡	P51, グラムF等	1000		7/9	浜松・豊橋	P51	90
	2/19	東京工業地帯	B29	100		7/9	仙台	B29	70
	2/25	東京・関東・甲斐	B29	130		7/10	関東地区	P51, グラムF, P38	1200
	3/4	東京・浜松・清水	B29	150		7/10	阪神地区	P51	100
	3/5	東京	B29	10(混投)		7/10	九州・沖縄	B29, P51	140
	3/10	東京大空襲	B29	334(混投)		7/12	鹿児島・宮崎・大分	B29, P51	180
	3/10	千葉・宮城・福島・岩手	B29	数十機		7/13	鶴見・宇都宮・大垣	B29	300
	3/12	名古屋大空襲	B29	130		7/14	室蘭・函館・釧路	P51, グラムF	800
	3/13	大阪大空襲	B29	300		7/15	北海道全域	P51, グラムF, P38	800
	3/17	神戸大空襲	B29	309		7/15	東海地区	P51	100
	3/19	名古屋	B29	130		7/16	大分・宮崎・鹿児島	B29, P51	230
	3/25	名古屋	B29	130		7/17	桑名	B29	90
	3/27	北九州航空基地	B29	150		7/18	関東地区・横須賀	P51, グラムF, P38	250
	4/4	関東・静岡	B29	90		7/19	関東地区	B29	150
	4/7	東京西部工業地帯	B29, P51	B29( 120 ), P51( 30 )		7/19	東海地区	B29	80
	4/7	名古屋	B29	150		7/19	日立・銚子・福井・岡崎	B29	175
	4/12	東京	B29, P51	B29( 100 ), P51( 数機 )		7/19	近畿地区	P51	60
	4/12	郡山(会津)	B29	50		7/22	近畿・岡山	P51	200
	4/13	東京	B29	170		7/24	大阪	B29, P51	400
	4/15	京浜地区	B29	200		7/24	日本全土	P51, グラムF	500
	4/21	九州航空基地	B29	180		7/25	四国・中国・近畿	P51, グラムF	500
	4/22	九州航空基地	B29	100		7/25	東海地区	P51, グラムF	300
	4/22	志摩半島軍事施設	B29	40		7/25	川崎工業地帯	P51, グラムF	50
	4/24	立川・清水	B29	120		7/26	松山・徳山・大牟田	B29	100
	4/26	九州各地	B29	100		7/27	九州全域	B29, P51	140
	4/27	九州各地	B29	150		7/28	東京・千葉・土浦	P51	240
	4/29	南九州	B29	100		7/28	中部・四国・東海	P51, グラムF	1100
	4/30	立川・平塚・厚木	B29, P51	B29( 100 ), P51( 100 )		7/29	平	B29	120
	5/3	九州各地	B29	80		7/29	海南・宇和島	B29	90
	5/3	阪神地区・周防灘	B29	15( 機雷投下 )		7/30	関東・東海・阪神	P51, P38, グラムF	2000
	5/4	関門海峡	B29	30( 機雷投下 )		8/3	関東地区	P51	100
	5/4	近畿・四国	B29	30		8/5	前橋・高崎・西宮・宇部	B29	400
	5/5	広島	B29	100		8/5	九州各地	B29, P51	380
	5/5	九州	B29	70		8/6	広島(原爆)	B29( エノラガイ )	1
	5/5	鹿児島	B29	38		8/7	豊川	B29, P51	100
	5/6	瀬戸内海	B29	20( 機雷投下 )		8/7	京浜西南地区	P51( 米英連合 )	40
	5/7	北九州・大分・鹿児島	B29	70		8/8	中部地区	B29, P51, P47	100
	5/8	千葉	P51	65		8/8	東京	B29	100
	5/10	中国・四国・九州	B29	350		8/8	北九州	B29, P51	260
	5/11	阪神地区	B29	60		8/8	福山	B29	60
	5/11	大分・宮崎・鹿児島	B29	25		8/8	中国・四国・九州	B29, P51, グラムF	250
	5/13	南九州	P51, P38, P47	900		8/9	長崎(原爆)	B29	1
	5/14	名古屋	B29	100( 名古屋城焼失 )		8/9	東北地区	P51, P38, グラムF	1100
	5/14	九州航空基地	P51, P38, P47	900		8/10	東京周辺	B29, P51	B29( 100 ), P51( 230 )
	5/17	名古屋	B29	100		8/10	尼崎・海南	B29	100
	5/17	京浜西南地区	P51	40		8/11	久留米	B29, P51	150
	5/17	関門海峡・豊後水道	B29	数機( 機雷投下 )		8/12	九州各地	B29, P51	200
	5/19	若狭湾・豊後水道	B29	40( 機雷投下 )		8/12	松山	B29, P51	85
	5/19	関東・静岡	B29	90		8/14	大阪・広島	B29, P38, P47	70
	5/23	関門・日本海・周防灘	B29	20( 機雷投下 )		8/14	関東・福島・新潟	B29	250
	5/24	東京	B29	250		8/15	関東地区	P51, P38, グラムF	250
	5/24	横浜・静岡・浜松	B29	数機					

註1 表8は加藤美希雄『日本列島大爆撃』(仙石出版1972年)より引用・作製した(一部修正)

(2)この爆撃攻撃の毎日に、たえず全国的に小規模な空襲・爆撃・機雷投下が行われていた。その意味で、日本全国、毎日が空襲下にあつたといつても過言ではない。

(3) B29爆撃機は、「超空の要塞」といわれた。『空の要塞』といわれたB17をはるかに凌駕するといふ意味で、「超空の要塞」といわれたのである。ちなみにB29は爆撃機(bomber)の略である。B29, B17はいずれも4機(4機の発動機つき)の爆撃機であり、1942年4月18日東京初空襲を遂行したフェアリス・H・ドローリットル大佐のひきいたB25双発爆撃機とは異なる。B29の大きさは幅43.07m,長さ30m,最高時速4585km,航続距離9350km,爆弾搭載能力7200kg。(1トン爆弾7コ,200kg口爆弾1コ)、12.7ミ機関銃10,20ミ機関銃1発,死角のないのが特徴とされた。(カール・パーガー著、中野・加倉川訳『B29』サンケイ新聞社出版局、1979年参照)

(4) P51は、正式にはP51Mスタングである。Bがbomber(爆撃機)の略称であつたように、PとはProtective Fighter(護衛戦闘機)の略と思われる。ちなみに単なる戦闘機はFighterで略称はFである。グラムマンといふに、P51は、最初はヨーロッパ(戦線ドイツ戦闘機の各機といわれたメッサーシュミット、ハインケル)に対して爆撃機を防御するために開発されたものである。P51で有名なのは初期のP51Aスタング、P51Bスタング、P51Dスタングで、P51Bスタングは、最高時速は700km,武装はプロペラエンジン12ミ機関銃4、最高航続距離3500km, P51Dスタングは、最高時速690km,最大航続距離3500km,武装はプロペラエンジン12ミ機関銃4の他に225口径爆弾2 450口径爆弾1(12.25センチロケット弾6)と武装力を強化している。

なお、日本の戦闘機「陸軍一式戦闘機隼」の最高時速は605km,零戦の後期改良型「54型丙」の最高時速は570kmで、陸軍四式戦闘機「疾風」はかつての最高時速は624km,海軍局地戦闘機「雷電」は最高時速595kmで、P51Aスタングに及ばなかった。(参照 ウィリアム・ヘス著野田昌弘訳『P51Aスタング』サンケイ新聞社出版局 1973年、カール・パーガー『B29』前出)



表9 8月15日の空襲被害

都市名	秋田市	小田原市	高崎市	熊谷市	伊勢崎市	計
死者	70	34	14	234	24	376
負傷者	80	50	16	3,000	85	3,231
焼失家屋	146	701		3,630	2,002	6,479

註1)水谷綱一『日本列島空襲戦災誌』より引用